

リカとのかかわりの中で ～サポーターズメンバーの働きかけ～

A. M. I 学童保育センター
中野健汰

■ A. M. I 学童保育センター 第一大元ホームの概要 (2018年9月～10月)

○常時利用児童数：79名

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男子	10名	10名	13名	4名	2名	0名	39名
女子	13名	9名	12名	5名	1名	0名	40名
計	23名	19名	25名	9名	3名	0名	79名

○常時指導員数：3名または4名（正規1名、補助2名または3名）

※A. M. I 学童保育センターは、今年5月から3施設に分離した。2015年までは隣接する大元・西学区の子どもたちが混合で生活していたが、2016年5月より大元ホームと西ホームのそれぞれの学区に分かれての保育となった。なお、実践者自身は、基本的には第一大元ホームで保育をしており、状況によって他のホームに移動し、保育にあっている。

■焦点を当てた子どもとこれまでの経緯

リカ：1年生女子、常時利用児童（週5日）、父と母の妹（1歳）4人家族

2018年4月より入所。入所当時は、同じ保育園出身メンバーが多く、友達関係には特に問題なく生活している姿が見られた。しかし、学校から登所し、手洗い・うがい→着替え（制服から私服）→宿題→おやつという基本的な生活の流れを定着することが難しく、着替えの途中に工作遊びやブロック遊びを始める姿などが見られた。また、遊びの場面でも彼女の自分勝手な言動と行動が他の子どもたちとのトラブルに繋がるケースも度々見られ、仲の良かった子どもたちからも「リカちゃんズルするもん！」という声も挙がっている状況だった。実践者自身からリカに声をかけても理由を話してくれようとするが、自分の言葉で話すことが難しく、内容のズレなどが感じられる状況だった。そこで、5月の時点でリカに対して「生活習慣の定着」「周りの子どもたちとのかかわり」をスタッフ集団で共有し、保育にあたることにした。生活習慣の定着として、リカに対して指導員が直接的にサポートし、彼女のペースを見ながら、ひとつずつ時間をかけて伝えていくことにした。また、周りの子どもたちとの起きたトラブルも基本的には指導員が仲裁に入って話をし、リカが伝えたい内容を指導員が代弁することを続けてきた。この段階では各スタッフが全面的にリカに対して直接的なサポートを繰り返し続けていた。

そんな中、夏休みに突入すると、1年生のサオリやアヤと一緒に「学校ごっこ」で遊ぶ姿や上級生たちと一緒に「虫取り」をして遊ぶ姿が見られた。遊びメンバーが固定になったことで以前まで見られた大きなトラブルは少なくなったように感じられた。また、4月に比べて、生活の流れが定着してきたのか「リカなあ…宿題のあとに公園でセミとるんだあ！」「お昼食べたらうらじゃの練習するんよなあ？」と行動に移す姿や自分の思いを伝える姿があり、実践者自身も5月に比べての変化を感じていた矢先のことだった。

※5～8月の時点で実践者自身はそれぞれの状況を見ながら各ホームの保育にあたっていた。それと同時に「各ホームのスタッフが自立し、それぞれのホームを守ってほしい！」という考えもあったため、

リカの状況は第一ホームのスタッフからミーティングにて共有し、特に困ったことは相談にのりながら対応している状況だった。

1. A先生とのやりとりの中で

(1) A先生からの相談 (9月21日)

そんななか、9月の半ばのことだった。毎日、1年生のお迎えを担当している第2ホームのスタッフより、「リカが夏休み明けから授業にまったくついていけないという相談が担任のA先生からありました…」という報告を受ける。というものの担任のA先生は以前からこちらとも学校との連携のなかで何度かやりとりをしており、「何かあったら言ってくださいねえ！」とおっしゃってくれ、こちらから相談するケースが多かった。そんな、A先生からの相談ということだったので、私自身もすぐに小学校に向かうのであった。

小学校に向かうとすぐにA先生が対応してくれ「実は…」と4月から9月までのリカの様子、リカの母親への不満を吐き出すように話をしてくれた。内容については以下のとおりだった。

●リカの学校での様子

- ・集中して授業に取り組むことができず、テストなども「分かんない」と白紙で提出することがある。
- ・休み時間をつかってA先生、補助員の先生が勉強を教えている。
- ・「先生～」とかまってくることが多い。

●A先生がリカの母親に対しての思い

- ・連絡帳のチェックや提出書類などを提出しない。
- ・妹(1歳)のお世話が忙しいのか？リカのことを見れていない。

A先生とは「今後とも情報は共有しながら取り組んでいきましょう！」という話になり、私は学校を後にすることにした。そして、今回のA先生からの相談を受けて、私のなかで「リカと母親との関係」が非常に気になった。その中でリカの母親が「妹のお世話が忙しい」ということに引っ掛かった。その理由として、普段のお迎えの場面で必ずといっていいほど「リカちゃん！急いでっ！」と大きな声で怒鳴るリカの母親の姿が思い浮かんだ。すでにこの件についてはミーティングし対応していたが、大きな改善はあまり見られていない状況だった。そして、リカが普段の生活の中で「なあなあ〜！」と背中に乗ってくるなど、過度にスキンシップを求めてくることや日々の会話の中で喋りだしたら止まらない場面があることを思い出す。彼女自身、学習面での問題、母親の問題など、様々な問題を抱えながら生活していたのだろうか？それと同時にリカとリカの母親の関係に問題があるのでは…。私自身「リカのためにも何ができるのだろうか？」という思いも強くなっていた。

(2) リカ観察による現状理解【宿題の場面】(9月21日)

この日はリカの様子をじっくりと観察することにした。A先生との話し合いの後、ホームに戻ると宿題に取り組むリカの姿があった。そんなリカに対して、私は「宿題手伝おうか？」とあえて声をかけ、リカの身の回りを確認することにした。筆箱の中身が黒鉛筆と赤鉛筆2本、かなりの短さだったため、しばらく交換されていないことが分かった。また、リカの母親自身、連絡帳でのA先生のコメントに対して返事が全くできていない状況も分かった。

しばらく宿題の様子を見ていると、ジッと問題を見ている状態が続き、全く宿題の進まない状況だった。私から「リカ、宿題分かるか？」と声をかけると「う〜ん…」と首を傾げながら「わかんない

…。」とつぶやく姿があった。その後も、周りの様子が気になってしまい集中が続かない…。また、足し算の問題にもかなり時間がかかってしまう状況だったため、この日は私がサポートすることにした。2人の状況が作れたので宿題に取り組みながらリカに対していくつかの質問を試みた。「①AMIで1番仲の良いお友だちは？ ②学校は楽しい？ ③お家では何をしているの？」といった内容の質問だった。リカは①の質問に「サオリちゃん！」と答え、②の質問には、しばらく考え「うーん…。」と答えることが難しい様子が見られたので、「リカ、勉強が分かんない…。」と続けて質問してみた。すると「リカなあ…。カタカナはできるんだけど、算数がわからんのよなあ…。」と教えてくれた。③の質問には「アイちゃんのお世話！」と答え、彼女なりにお家の状況を教えてくれるのだった。その後はようやく宿題を終わらすことができ、公園では1番仲の良いと答えたサオリやサトミ、アヤと一緒にごっこ遊びをする姿があり、遊びの場面では特にこの日は問題となる様子は見られなかった。リカとの会話から学習面（足し算）にかなりの遅れがあること、お家での状況の2点を把握することができた。

（3）リカ観察による現状理解【母親とのやりとり】（9月21日）

この日の18時40分頃、リカの母親がお迎えに来られた。A先生とのやりとりのなかでリカの母親自身も何かの困り感があるのでは？と感じた私はそれを探ることにした。

いきなり深い話をするのはおかしいと感じたため、最初はあえて明るくお迎え対応することにした。「お母さん、おかえりなさいーい！」と声をかけると「あ、ありがとうございます…。」と少しオドオドする様子が見られた。その後、今日の公園での出来事を伝え、「お母さん、一つお聞きしたいんですけど…。」と私が話を切り出すと「何かありましたか…。」ということだったので、鉛筆の件を伝える。すると「あ…。全然、気づきませんでした…。」と焦る姿が見られた。「お母さん、忙しいよね…。？疲れてる？」と声をかけると「そうなんですよ…。」と4月から職場復帰したばかりということをお母さんの口から教えてもらったのだ。また、私との会話の中で「余裕がなくなって…。」という言葉が目立って見られ、リカの母親の姿は心身ともかなり疲れているように見られた。

私のなかで、まずリカの母親をサポートしないと、先が開かれてはいけないのでは…。という思いを抱いていた。

（4）リカ観察による現状理解【ミーティング】（9月25日）

休み明け、第一大元ホームのスタッフに集ってもらい、昨日の出来事を伝え、リカ問題解決に向けてしばらくの間、私が第一大元ホームに保育にあたることを伝える。また、各スタッフから最近のリカの様子を聞き出し、どのように彼女にかかわっていくのかを決めていくことにした。そこでは、やはりリカが宿題に対して時間がかかっているということを他のスタッフから報告を受ける。また、宿題に時間がかかりすぎてしまい、彼女がAMIにきてもっとも楽しみにしている「公園遊び」の時間が確保できない状況もたまに見られるということだった。

そこで、①リカが楽しみにしている公園遊びの確保 ②彼女が過度にスキンシップを求めたときは対応し、様子についてはできるだけ詳しく記録すること ③リカの母親へのサポート と私のなかで実践目標を決めたのだった。ここで一番の悩みだったのは「宿題」への取り組みではあった。彼女が自分の力で宿題に取り組むことはかなり難しい。また、宿題の場面にリカに継続的に抱えることも極めて難しい状況だった。

遊びを優先してしまうと、やはり宿題が中途に半端になってしまい、A先生や母親との問題につながってくるのでは…。と感じていた。

2. リカ、サポーターズ結成！（9月25日）

（1）ハル・ヤスカの声かけ

この日、「ただいまぁ〜！」といつものように大きな声で登所するリカの姿があった。服を着替えるとすぐに宿題に取り組む姿が見られた。また、筆箱の中身がきちんと追加されており、「お母さん、きちんとやってくれるな…。」と私自身少しばかり安心したのであった。この日も、算数プリントに時間がかかるが、2便の公園時間（16：40〜）に間に合わすように私がサポートし、なんとか公園に行くことができた。

そして、帰りの会の場面、4年生のカイトとイッセイの2人が「帰りの会するから2階に集まろう〜！」と声をかけるが、全く聞いていないリカの姿があった。他の子どもたちが次第に集まっていくなか、リカだけが2階をフラフラと歩き回る姿が見られた。すると、「リカ、こっちよ〜！はよ集まって座ろうか？」と優しく声をかけ、サポートする3年生のヤスカ、4年生のハルの姿が見られた。ヤスカとハルの2人は普段から第一大元ホームのリーダーとして活躍してくれる姿があり、周りからも「優しいお姉さん」的な存在として慕われる姿があった。この瞬間、リカと2人のやりとりを見て、彼女たちにリカのことを相談してみよう…。と私自身考えたのであった。

また、ヤスカは私の中で気になっている存在の1人でもあった。その理由については、9月いっぱい1番仲の良いカオリが母親の出産のため来年度まで一時的に休むことが決まっていた。彼女自身、1番の親友がいなくなるということで精神的に不安定にもなるであろうし、ヤスカの母親も「家で泣いていることもあって…10月から大丈夫かなあ？」と心配している姿があった。そんな、ヤスカにお願いすることで彼女自身も新しい役割を見つけて生活できるのでは？という考えもあった。

（2）レイにお願いして3人に相談

私は、帰りの会後にすぐにヤスカ、ハルの2人に相談しようとしたが、少しばかりの問題が浮かんできた。それは、2人の時間割は6時間授業が多いということ。そうなった場合、宿題への取り組みに困り感があるリカに対して2人がサポートするという事は難しいという状況であった。そこで、リカと同じチームである、2年生のレイにお願いすることにした。レイは、普段の生活でも1番に宿題を終わらせることが多く、下級生のサポートをする姿やヤスカとも親しい関係だったため、2年生ながら彼女なら大丈夫なのでは…？という思いがあった。

すぐに、3人を呼ぶと、「どうしたん？」とハル。「なんかウチらが呼ばれるって珍しいなあ…」とヤスカ。「なんかあったの？」とレイ。3人が不思議そうにしていたので、「実は3人に相談があって…。リカのことなんやけど…」と私からの話を切り出すと「ああ〜。」と何かを感じているような反応が見受けられた。「今、リカは学校でもAMIでも勉強に苦しんでいるんよ…。そこで、もしよかったら3人にサポート（お助け）をお願いしたいとケンタ（実践者の名前）は考えているんよ…。」と話すと、「リカ…よく宿題のときに分かんず困っているよね…。2年生になってこのまま勉強ができんかったら困ると思う。」とハル。ハルの言葉を聞いて「リカ、いつも公園に行きたい！って言ってるよね…」とヤスカ。レイも2人のやりとりを聞き「うんうん。」と頷く姿が見られた。

彼女たちもリカのことを理解してくれている姿が見られ、「OK！リカのことはウチが見るわっ！」とヤスカが快く返事をしてくれると「一緒にやるよっ！」とハル、レイの2人も賛成してくれたのだ。最後には私を含めての4人で輪を組み、ハルの掛け声で「リカ、サポーターズ」を結成したのであった。

3. サポーターズメンバーがリカと関わっていくなかで（26日〜10月3日）

（1）宿題の場面でのサポート

25日の話し合い後、早速、「じゃあ、ウチと一緒に宿題してくるよっ！」とハルがリカに声をかけてくれた。宿題は終わっていたものの、学校から返されていたお直しが溜まっていたリカ。2階にあるリラックスメームに向かい宿題をサポートする姿が見られた。「リカ、この問題は分かるかな？」とハル。リカが答えに悩む姿があると「大丈夫よ～！これはね…」とリカが理解しやすいように教えてあげる姿が見られた。また、リカが問題に正解すると「お～リカ！すごいじゃ～ん！」とポジティブに声をかける姿が見られ、雰囲気としてもかなり良いように感じられた。その後も宿題に取り組み、溜まっていた宿題を1時間以上かけて全ておわると「できた！ ハルありがと！」と伝えるリカの姿があり「どういたしまして！よく頑張ったね！」と応えるハルの姿があった。リカが遊びへ向かうと「あ～疲れたあ～！」と声を出すハル。そんなハルに「ハル、お疲れ様！さすがハルじゃな～！教え方が塾の先生みたいやっただで！」と私から伝えると「そんなことないって～！だって1年生の問題でしょ？簡単だって！」とハル。「でも、疲れたる？無理をさせとると思うけど…なんかあったらいつでも相談してな？」と声をかけると「OK！リカ…時間はかかるけど教えたら分かってくれるから全然大丈夫よ～！」と答えたのだった。

この日のお迎えの時間、3人の保護者には私のほうからサポーターズを結成した件について伝えさせてもらった。その中でも「ヤスカが「リカのお助けをウチがするんだっ！」と教えてくれました。カオリちゃんのことであって少し心配だったけど…ヤスカがやる気になっているみたいで良かったです！」という声をヤスカの母親からいただいたのだった。

(2) 様々な場面で声をかける姿が見られる

その後も学校から帰ってくると「リカは？」と必ず確認する姿が見られ、「リカ、ただいま～！」と声をかける姿が見られた。

特に、3人の中でもヤスカのサポートは大きかった。どんな場面でもサッとやってきて助けてあげる姿があり、宿題の場面では「ウチのとなりでやり！」と声をかける姿や、リカが遊びのなかでトラブルが起こると「どうしたん？」と仲裁役に入る姿があった。ときには、「リカ、それはダメ！」と伝える姿があり、「どうしていけなかったのか？」を説明するヤスカの姿があった。3人は様々な場面でリカに関わる姿が見られた。私は3人がそれぞれリカに声をかけるとき時には、なるべく近くでその様子を記録し、ときには「今の場面は～ふうに声をかけてみたら？」などとアドバイスをしたり、リカの宿題状況を見ながら「おお～！今日は早く終わったなあ！」「今日は時間かかったなあ～」と成功したときは一緒に喜び、失敗したときは一緒に悔しがることを続けた。

すると、リカからも変化が見られるようになる。学校から登所してくると「ヤスカは…？」「ハルは今日来るの？」「レイちゃんに宿題教えてもらった！」という言葉が出てくるようになった。3人とのやり取りで嬉しかったことがあると「あのね…！」とリカの言葉で私に伝えにきてくれる姿があった。私には、そんな彼女の姿が「きっと嬉しくて、誰かに聞いてもらいたいのだろう…」と感じ、できるだけ彼女とのやりとりは時間を使って共感することを続けたのだった。

また、遊びの場面でヤスカ、ハルに抱きついたり、一緒に手をつないだり、おんぶしてもらおう姿が見受けられたのだった。

4. A先生との情報共有

25日の出来事をA先生に伝えようと考えた私は1年生のお迎え時間に小学校へ向かうことにした。A先生がやってくると「先生！朝見て驚きました！リカさんの宿題とお直しが終わっていました！」という報告を受ける。そこで、A先生には今後、A. M. I がリカに対してどのようにかかわっていくのか、

そして、3人のメンバーがリカをサポートすることになった件を細かく伝えることにした。私からの報告を受けて「それはありがたいです…！」と喜ばれるA先生の姿があった。

さらに、私から「ハルとの宿題のやりとり」を見たなかで感じたことをA先生に伝えさせてもらった。リカに対してポジティブに声かけをすることで彼女がやる気を引きだし、行動に移すのでは…？ということ伝えと、A先生も「私は最近、リカさんがトラブルを起こすとどうしても大きな声を出してしまうことがありました。先生と話をさせてもらって少し反省しています…。こちらでもリカさんの様子を見ながら接してみます！」と理解してくれたのだった。その後はA先生がAMIに訪れてリカの様子を見に来てくれたり、学校での様子を伝えにきてくれたりなど、情報を共有しながらA先生とのやりとりを続けた。

5. リカの母親とのやりとりにて

(1) 手応えのなさを感じる

私は、リカとのかかわり、A先生との情報共有をしていくと同時にリカの母親へアプローチすることを試みることにした。とにかく、リカの母親との関係を築いていこうと考え、お迎えの際には積極的にコミュニケーションを取っていくことを続ける。リカの母親が急いでいる場面などを除いては毎日のように声をかけることにした。リカの様子、3人とリカとのやりとりなどを伝えさせてもらったが、「ありがとうございます〜」「そうなんですね〜。」とリカの母親の反応の薄さに「本当に伝わっているのか…？」という手ごたえのなさを感じていた。

(2) 様々な実践記録を振り返る

私はリカとの母親とのやりとりで悩んでいた。何か手応えのない感じがモヤモヤとした気持ちで残っていた。そんな、モヤモヤがありながら、ふと私は研修でいただいた他クラブの先生方の「実践記録」を保育後のホームに残って読んでみることにした。その記録の中で1人の実践者が書いた「不登校の子どもをケアするために」という記録を手にとった。以前も私はこの記録を読んだことがあったがそれは2年ほど前だったため、正直内容もうっすら…と記憶しているだけだった。もう一度、この実践記録を読む中で、実践者が不登校の子どもに対して様々な角度からアプローチをすると同時に学校の先生・クラブの仲間たち・母親と細かく連携とり、不登校の子どもに対してケアしていることが分かった。また、実践者と母親が一緒になって、データを記録するなどして変化を共有する内容が書かれており、今、私がやっていることの違いを学ばせてもらうことになった。確かに保護者はそれぞれ違う。けれども、何か目に見えてリカの様子が分かるものがあれば、もしかしたらリカの母親とのやりとりに変化があるのでは…？と感じた私は明日からの実践につなげる方法を考えることにした。

6. 宿題チェック表の作成

(1) サポーターズへの相談とお願い (10月9日)

私は、リカの母親とのやりとりに変化を加えていくために、リカの困り感であった「宿題」の部分に着目することにした。また、特に「宿題」の場面でのサポーターズメンバーとの関わりも多く見られたということも着目材料の1つとなった。そこで、「宿題チェック表」を作り、リカの母親と一緒に共有するのはどうだろうか？と考えた私はサポーターズメンバーに「宿題チェック表」を相談することにした。

この日の夕方、サポーターズメンバーに集まってもらった。本題の話をする前に「サポーターズを結成してから今までの中でそれぞれが感じたことや思ったこと…何でもいいから話して欲しい！」と私か

ら伝え 3 人に聞いてみることにした。「最近、リカから声をかけてくれることが多くなってきた！ハル〜って…！スゴイそれが可愛いんよなあ…。」とハルが話すと「宿題のときとか分からないことがあると聞いてくるよ！」とレイちゃん。また、3 人の中でも 1 番多く関わっていたヤスカは「リカ、前よりもスゴイ宿題頑張ってるよ！ときにウソついてしまうことがあるけど…ちゃんと伝えたら分かってくれるよ？」と教えてくれた。3 人に対して過度な負担がかかっていないことを話のやりとりの中で少し感じることができた。

そこで、私が 1 番伝えなかった「宿題チェック表」を 3 人に伝えることにした。3 人には「チェック表があればリカがもっと宿題に取り組めるのでは…」ということ伝え、できるだけ細かく伝えさせてもらった。私の提案を聞いて「それいいと思う！例えばなんだけどリカの好きなキャラクターにするとかはどう？」とハル。「好きなキャラクターかあ？リカってディズニーとか好きじゃなかったけ？」とヤスカが答えると「え？そうなの？」とレイ。3 人の中で会話を楽しむ姿が見られた。すると「じゃあ！このハルさんが書いてあげようかあ？」と少しニヤニヤしながらハルが手を挙げてくれた。「ハルさん…大丈夫なの？」とヤスカとレイの 2 人が聞くと「任せなさい！ウチ、こうゆうの得意なんよなあ！」とやる気になっているハルの姿が感じられた。その後、3 人は「リカの好きなキャラクターをバレないように聞いてきて…？」「シールとか貼ってあげたらいいじゃない？」と自分たちで案を考える姿が見られた。最後にハルから「金曜日までに必ず作ってくる！私は休みだけどヤスカ、レイちゃん、リカのことお願いね！」と伝えるのであった。私はこの 3 人のやりとりに喜びを感じるとともに、私自身も頑張らないと！と思うのであった。

(2) ついに「宿題チェック表」完成！（10月12日）

9 日～11 日までのリカの様子はヤスカ、レイの 2 人に協力してもらいながら宿題に取り組む姿が見られた。ときに、大きく時間がかかってしまうことがあるが、宿題が終わると必ず公園へ向かいサオリと一緒にごっこ遊びをする姿が見られた。

そして、12 日はハルの登所日。先に帰っていたヤスカ（この日、レイが休みだった）はリカに対して「リカ〜今日なあ、ハルさんが喜ぶことしてくれるよ！」と伝える姿があった。16 時頃、ハルが登所してくると「みんな待ってたあ？」と手には巻物のようなものを持っているハルの姿があった。リカを呼び、「ハイっ！」と「宿題チェック表」を見せてくれると、見事に手作り感満載のチェック表が完成されていた。また、中身は「リカの好きなディズニーのキャラクター」「それぞれからのコメント欄」「次にがんばりたいことは…？」などとハルが「リカのために…」という気持ちが詰まっているのを私の中で感じられたチェック表だった。リカがチェック表を見ると「わあ〜スゴイ！！ミニーちゃんー！」と喜ぶ姿があり、そんなリカに「良かったね！」と声をかけるヤスカの姿が見られた。

その後はハル、ヤスカの 2 人からレイが登所したときに、全員で揃ってルールを決めていきたいというお願いがあった。私からは「ぜひ！そうしよう！」と伝え、ハルに対して「ありがとう！」と伝えたのだった。

7. 宿題チェック表を活用しながらのかかわり

(1) 「宿題チェック表」への取り組みスタート！（10月15日）

この日、3 人が揃うとリカへ宿題チェック表へのルール説明が行われた。宿題が全て終わったら好きな色のシールを貼り、10 個シールが溜まったらリカが好きなディズニーのシールを貼ってあげるということだった。また、3 人はそれぞれ休みの日があったため、ハルを中心に担当する日を決める姿があった。そして、月曜日と金曜日がハル 火曜日と水曜日がヤスカ 木曜日がレイという担当になり、リ

カ自身も「うん。わかった！」と頷くのであった。この日は月曜日だったためハルの担当日だった。リカの宿題を確認すると「おお～！よくできたじゃん！」と声をかけるハルの姿が見られ、シールをもらったリカも「よしっ！今日は白色にする！」と喜ぶ姿が見られた。

(2) リカの母親へ様子を伝える (10月15日)

お迎え時間、リカの母親がやってくると、私は「宿題チェック表」を見せることにした。宿題チェック表を利用しながら、今日の出来事やこの1週間のサポーターズとのやりとり。そして、リカが以前に比べて宿題への取り組みを意識して取り組んでいることを伝えさせてもらった。すると、リカの母親から「これ4年生が書いたんですか？」「リカのために…ありがとうございます…」と興味を示し、今まであまり見られなかった「笑顔」が見られたのだった。その後、やりとりの中で私から「お家での状況はどうですか…？」とお聞きすると、妹のお世話をよく手伝ってくれ、自分のお菓子を半分あげるリカのエピソードを教えてもらった。また、リカが帰りの用意をして「何してるの～？」と外に出てくると「リカちゃんが頑張ってることを先生から聞いたのよ。」と声をかけるリカの母親の姿が見られたのだった。

8. リカとの会話の中で (10月18日)

この日の宿題の時間、リカから「ママとね…。宿題頑張ってるんだあ～！」と伝えてくれるのだった。リカの発言に驚きながらも「スゴイ嬉しかったんだらうな…。だから伝えたいんだよな。」と感じた私は「おお！そうか！よかったなあ！！」と声をかけたのだった。この日の出来事をリカの母親に伝えると「そんなことを…」と驚く姿が見られた。私から「きっとリカの中でお母さんが宿題を教えてくれたのがスゴイ嬉しかったんだと思いますよ…！」と伝えると少し照れながら「ありがとうございます…！」と答えたのだった。その後も私は宿題チェック表を活用し、日々の様子を伝えながらリカの母親とのやりとりを続けたのだった。やりとりを続けていくことでリカの母親からも「今日も宿題頑張ったみたいですねっ！」「計算、時間がかかりませんでした？」と声をかけてくれる場面も増えてきた。また、お家で使わなくなったクリスマスツリーやあみ屋（駄菓子屋）に「ドラえもん」の旗などをホームに寄付してくれる姿があり、ほんの少しだが以前と比べてこちらに心を開いてくれているのかな？と感じられた瞬間だった。

9. ついにシールが10個溜まる！ (10月29日)

15日以降もサポーターズメンバーの取り組みは続いており、それぞれの場面でリカをサポートする姿が見られた。そして、ついに「宿題チェック表」に10個のシールが溜まることになる。「シールが10個溜まったー！！」とリカと一緒に喜ぶ3人の姿を見て、私自身も嬉しかった。そして、ハルを中心に「そろそろ11月のカレンダーも作らないといけないなあ！」と話す3人の姿が見られたのだった。10月31日にはそれぞれがリカに対しての10月分のコメントを書き、リカに渡す姿が見られた。また、リカ自身も「次は着替えを頑張る！」と目標を決めたのだった。

10. 現在のリカの様子

現在もリカとサポーターズ3人の取り組みは続いている。また、3人以外にも2年生のイッセイ、アキ、ユキ、カエデの4人も「宿題、教えてあげるよ！」とリカに教えてあげる姿が見られてきた。A先生からも「最近は学習発表会のセリフ、頑張っていますよ！」「宿題も毎日頑張ってますね…！ありがとうございます！」と教えてくれることがあった。彼女なりに頑張っていることを感じた。そんな

リカから公園に行く道での道中、「なあ…ケンタ、頑張るパワーって知ってる？」と質問された私は「頑張るパワー…？」と答えると「リカなあ。オバケが好きなんよ。それで、オバケには頑張るパワーがあるから、それを紙で作ってハルとヤスカとレイちゃんにあげるんだ！」と教えてくれたのだった。リカなりに3人に「ありがとうの気持ち」を伝えたかったのだろう。私はそんなリカに「頑張るパワーか…！きっと喜ぶと思うわ！」と伝えたのだった。

11. 今回の実践を通して

リカが苦手意識のある宿題に取り組めることができたのは、サポーターズメンバーの力が大きかったのでは…。と振り返って思う。3人がリカのことを理解し、取り組んでくれたこと。そして、リカ自身も周りから助けられながら、最後まで取り組み続けたことは彼女にとっても大きな出来事だったのではないかと思う。私は、子どもたちの弱い部分や苦手な部分を、たくさんの仲間たちで支えあえる環境を作っていくことが大事だと思う。そんな環境を作っていけるように…これからも実践に取り組んでいきたい。

【宿題チェック表】

